

令和5年度 とくしま政策研究センター調査研究
祭り文化継承のための関係人口創出調査

徳島県南部総合県民局
令和6年3月

目次

1. 背景と目的	1
1-1. 祭り文化を取り巻く状況	1
1-2. 日和佐八幡神社秋季例大祭の概要	1
1-3. 「秋祭り」を取り巻く状況	2
1-4. 本調査の目的	2
2. 仮説	2
3. 調査方法	3
3-1. 調査対象	3
3-2. 調査期間	4
3-3. 調査方法	4
4. アンケート結果	6
4-1. アンケート回答者の概要	6
4-2. 仮説の検証：仮説1	8
4-3. 仮説の検証：仮説2	10
4-4. 仮説の検証：仮説3	13
4-5. 今後、どのように「秋祭り」または地元のお祭りに関わりたいか	17
4-6. どんな取り組みや支援があれば「秋祭り」や地元のお祭りに参加しやすくなるか	19
5. 考察	20
5-1. 祭り文化の関係人口創出について	22
5-2. 関係人口が実際にお祭りに参加しやすい状況にするには	23
6. まとめと今後	24
7. 終わりに	24
8. 参考文献	25

1. 背景と目的

1-1. 祭り文化を取り巻く状況

地方においては、古くから各地でお祭りが行われてきた。お祭りの開催にあたっては、老若男女に関わらず地域住民総出で準備を行い、お祭りの当日には世代を超えた交流が生まれる場となっていた。

しかし近年では、地方での人口減少及び高齢化により、お祭りの担い手が不足し、その多くが存続の危機に立たされている。加えて、昨今のコロナ禍に伴い開催を自粛していたお祭りが、コロナ禍が明けても担い手不足により再開できないといった事例も多く耳にする。

阿南市、那賀郡、海部郡の1市4町からなる徳島県南部圏域も例外ではない。

昭和45年国勢調査では130,577人であった圏域内人口は、50年後の令和2年国勢調査では95,160人と、昭和45年人口の72.9%にまで減少している。徳島県全体では、令和2年の人口は昭和45年の91.0%（昭和45年791,111人、令和2年719,559人）である。

また、高齢化については、市町村毎の年齢別人口が公表されている昭和60年国勢調査と令和2年国勢調査における65歳以上人口の割合を比較すると、南部圏域については、昭和60年の15.2%から令和2年には37.7%に増加（22.5ポイント増）し、県全体では、昭和60年の13.3%から令和2年には33.1%に増加（19.8ポイント増）している。南部圏域の方が増加幅が大きくなっていることから、南部圏域においては県全体と比べても顕著に高齢化が進行していることが分かる。

これらのことから、県南部圏域では、県全体と比べても、人口減少及び高齢化が特に顕著に進行しており、各地のお祭りにも大きな影響を及ぼしていると考えられる。

1-2. 日和佐八幡神社秋季例大祭の概要

徳島県海部郡美波町の大浜海岸のそばに鎮座する日和佐八幡神社では、古くから1年の豊穰豊作を祝う氏子の祭りとして、日和佐八幡神社秋季例大祭（以降「秋祭り」とする。）が行われてきた。

「秋祭り」は2日間にわたって実施され、1日目は「金みこし」と呼ばれる御神輿や「ちょうさ」と呼ばれる太鼓屋台が町内を巡幸する「町廻り」や、宵宮、奉納花火が行われ、2日目には「金みこし」や「ちょうさ」が大浜海岸に作られた御旅所へと繰り出す「御浜出」及び再び境内へと帰っていく「御入り」が行われる。なお、明治初年からは、旧暦の8月15日に行われてきたが、主要産業である漁の時期との関係や、天候の影響により、平成12年からは、10月第2週の土曜日に町廻りや宵宮、日曜日に本祭りを行うようになった。

「ちょうさ」は「秋祭り」の大きな特徴のひとつであり、旧日和佐町内の8町（東町、西新町、本町、桜町、恵比須浜、中村町、奥河町、戎町）がそれぞれ特色のある「ちょうさ」を奉納運行している。最も歴史の古い戎町の「ちょうさ」については、寛政7年（1985年）の記録が残っており、歴史の古い祭りである。

「秋祭り」においては、神社の総代及び氏子青年会や、ちょうさの担ぎ手である「太鼓若連中」、「ちょうさ」に乗り太鼓を叩く「打ち子」と呼ばれる小中高校生ら、料理や飲み物、衣服等を準備し、祭りを支える「当屋」など、様々な関係者が参加し、祭りを行っ

ている。

現在、土曜日の町廻りでは「ちょうさ」を台車に乗せて運行しているが、日曜日の本祭りでは担棒をいかだのように組み、約 50 人以上で担いで御浜出及び御入りをを行う。8 町のなかには「ちょうさ」を担いだまま海へ飛び込むものもあり、「秋祭り」の時期には町内外から多くの見物客が訪れている。

近年では、「樽みこし」と呼ばれる子どもみこしや、高校生から 20 代の女性を中心とする「ギャルみこし」も運行されている。

1-3. 「秋祭り」を取り巻く状況

「秋祭り」についても、過疎化の影響は深刻である。

御浜出及び御入りの際には、1 町の「ちょうさ」につき約 50 人の担ぎ手が必要であり、かつては各町独自で 50 人を確保していたが、現在ではその確保が難しくなっている。

そこで、平成 22 年に、祭り文化維持のため町内有志により「日和佐ちょうさ保存会」が設立され、8 町以外の子どもにも太鼓を教える教室やフォトコンテストの開催、カレンダーの販売等を実施し、祭りの魅力を町外にも届ける取り組みを行っている。さらに、同保存会では、県内の大学生や企業等、地域外からも担ぎ手を募集している。

それでも、依然として担ぎ手不足は深刻な問題であり、各担ぎ手が自身が所属する町や担当する町以外の「ちょうさ」も担ぎ、人数を確保している状況にある。

1-4. 本調査の目的

地域におけるお祭り文化の継承は、単に伝統や文化の継承という面だけでなく、お祭りという世代を超えた交流の機会の維持という面でも重要である。また、今後南海トラフ大地震の発生が予想されている県南部圏域においては、お祭りの際の交流による繋がりから、住民同士が声を掛け合い避難することで、単独で避難することが難しい高齢者や子どもの命を救うことにも繋がる。このような地域の繋がりを育む場であるお祭りの意義は今後も大きく、その文化を継承していくことで、地域の担い手の確保につながる効果が大きく期待されることから、その持続可能な体制づくりが急務となっている。

しかし、人口減少及び少子高齢化は今後も続くことが予想され、2050 年には徳島県南部圏域の人口は 54,404 人（徳島県全体では 480,669 人）になると推計されている。また、各地で移住者の獲得競争が激化する一方で、国全体の人口が減少すると推計されている今日においては、移住者を増やしてお祭りの担い手を確保しようとするアプローチには限界がある。そこで本調査では、地域外で定住する者以外によるお祭りの担い手、とりわけ地域出身で地域外に転出した人に注目し、彼らがお祭りの時期に帰省することで、住民でも一度限りの観光客でもない関係人口としてお祭りを支えていく体制を構築するために必要なアプローチ方法について検証する。

2. 仮説

本調査では、子どもの頃のお祭りへの関わりと、現在及び今後の関わりに関する以下の仮説を設定し、その仮説を検証することにより、今後のお祭りの担い手となり得る関係人

口の創出に必要なアプローチ方法について検討する。

仮説 1 子どもの頃（高校生頃まで。以降も同様。）にお祭りに関わったことのある人の方が、現在もお祭りに関わっている、もしくは関わりたいと考えている。

仮説 2 子どもの頃にお祭りに深く関わった人ほど、現在もお祭りに関わっている、もしくは関わりたいと考えている。

仮説 3 子どもの頃にお祭りに長く関わった人ほど、現在もお祭りに関わっている、もしくは関わりたいと考えている。

仮説 1 で、子どもの頃のお祭りへの参加と、現在のお祭りへの関与状況及び愛着を検証し、仮説 2 及び仮説 3 において、仮説 1 を質的及び量的に掘り下げて検証する。

3. 調査方法

本調査では、大きく分けて 2 つの対象に対しアンケート調査を実施し、2 であげた仮説を検証する。

その後、検証した仮説及びその他の設問の分析を通して、お祭りの関係人口創出のためのアプローチ方法を検討する。

3-1. 調査対象

対象 1 県南部圏域の県立高等学校に通う高校 2,3 年生
(阿南光高校、富岡東高校、富岡西高校、那賀高校、海部高校)

対象 2 旧日和佐町出身で、現在は地域外に転出している人
(県人会会員、美波町にふるさと納税として寄附をした人)

対象 1 については、県南部圏域には大学がなく、多くの高校生は進学・就職等で地域を離れる直前の段階にある。その段階におけるお祭りや地域への愛着を調査することで、地域を離れたあともお祭りや地域に愛着を持ってもらえるようなアプローチ方法を検討する。

なお、どちらの対象についても、旧日和佐町出身者については、「秋祭り」について回答してもらい、旧日和佐出身者以外については、それぞれの地元のお祭りについて回答してもらうことで、「秋祭り」だけでなく、県全体で見たお祭りへの意識を調査する。

3-2. 調査期間

対象1 県南部圏域の県立高等学校に通う高校2,3年生

… 令和5年12月

対象2 県人会会員

… 令和6年1～3月

美波町にふるさと納税として寄附をした人

… 令和5年11月～令和6年1月

3-3. 調査方法

① 調査対象に対し、アンケート調査（Web 及びアンケート用紙により回答）を実施。

アンケート配布方法

高校生

…各高校に依頼してアンケート（Web またはアンケート用紙により回答）を配布

県人会会員

…東京徳島県人会、中部徳島県人会、徳島県人会近畿連合会の会員に対し、各県人会に依頼してアンケート（Web またはアンケート用紙により回答）を配布

ふるさと納税寄付者

…美波町からふるさと納税の領収書を郵送する際に、アンケート（Web で回答）を同封

主な質問項目

- ・日和佐出身かどうか（日和佐出身の場合は以降の設問は「秋祭り」について回答し、日和佐以外の出身の場合は地元のお祭りについて回答）
- ・子どもの頃にお祭り（「秋祭り」または地元のお祭り）に関わったか
- ・子どもの頃にお祭りにいつ関わったか
- ・子どもの頃にお祭りにどのように関わったか
- ・最近、お祭りに関わったか
- ・最近関わっていない場合、今後、機会や関わりやすい状況があれば関わりたいか
- ・今後お祭りに関わりたい場合、どのような取り組みや支援があれば、関わりやすいか

② アンケートの回答をもとに、仮説1～3を検証

仮説1

子どもの頃にお祭りに関わったことが、

┌ ある ─┬─ 最近もお祭りに関わった＋最近は関わっていないが関わりたい … A%
└─ 最近は関わっていないし関わりたくない

- └ ない ─┬─ 最近もお祭りに関わった＋最近は関わっていないが関わりたい … B%
- └─ 最近は関わっていないし関わりたくない

子どもの頃にお祭りに関わったことがある人となない人とで、最近もお祭りに関わった人と最近はお祭りに関わっていないが関わりたいと考えている人を合計した割合を比較し、 $A% > B%$ であれば、仮説は立証された。

仮説 2

子どもの頃のお祭りへの関わりの深さの指標として、お祭りでの役割を考える。

- 関与深 ↑
- ア 子どもみこしを担いだ、「ちょうさ」を担いだ、太鼓を叩いた、「ちょうさ」の組み立てや飾り付けをした、料理や飲み物、衣服の準備をした
 - イ 露店で買い物をした、観客として関わった

お祭りへの関与の程度が、

- └ ア ─┬─ 最近もお祭りに関わった＋最近は関わっていないが関わりたい … C%
- └─ 最近は関わっていないし関わりたくない
- └ イ ─┬─ 最近もお祭りに関わった＋最近は関わっていないが関わりたい … D%
- └─ 最近は関わっていないし関わりたくない

子どもの頃のお祭りへの関与の度合い毎に、最近もお祭りに関わった人と最近はお祭りに関わっていないが関わりたいと考えている人を合計した割合を比較し、 $C% > D%$ であれば、仮説は立証された。

仮説 3

子どもの頃にお祭りに関わった期間の指標として、小学校入学前、小学生のとき、中学生のとき、高校生のときの4段階を設定し、そのうちいくつかの段階で関わったかを考える。

お祭りに関わった段階数 (※ 1)

- └ 4 ─┬─ 最近もお祭りに関わった＋最近は関わっていないが関わりたい … E%
- └─ 最近は関わっていないし関わりたくない
- └ 3 ─┬─ 最近もお祭りに関わった＋最近は関わっていないが関わりたい … F%
- └─ 最近は関わっていないし関わりたくない
- └ 2 ─┬─ 最近もお祭りに関わった＋最近は関わっていないが関わりたい … G%
- └─ 最近は関わっていないし関わりたくない
- └ 1 ─┬─ 最近もお祭りに関わった＋最近は関わっていないが関わりたい … H%
- └─ 最近は関わっていないし関わりたくない

※1 お祭りに関わった段階数

小学校入学前、小学生のとき、中学生のとき、高校生のときの4段階のうち、

4…4段階全てで関わった

3…4段階のうちいずれか3つの段階で関わった

(関わった段階が連続している必要はない)

2…4段階のうちいずれか2つの段階で関わった

(関わった段階が連続している必要はない)

1…4段階のうちいずれか1つの段階でのみ関わった

子どもの頃にお祭りに関わった段階数毎に、最近もお祭りに関わった人と最近はお祭りに関わっていないが関わりたいと考えている人を合計した割合を比較し、 $E\% > F\% > G\% > H\%$ であれば、仮説は立証された。

③ アンケートの回答をもとに、お祭りに関わりたいと思う人は、どのような取り組みや支援があれば関わりやすいかを分析する。

④ ②③の結果から、地域を離れてからもお祭りに関わってくれる人や関わりたいと思う人を増やすためのアプローチ方法及び実際に関わってもらうためのアプローチ方法を検討する。

4. アンケート結果

4-1. アンケート回答者の概要

①アンケート回答率

表1

	配布数	回答数 (回答率)
高校生	1,385	589 (42.5%)
県人会会員	548	237 (43.2%)
ふるさと納税者	300	17 (5.7%)
計	2,233	843 (37.8%)

②回答者の年齢構成

・高校生

表2

2年	3年	計
335 (56.9%)	254 (43.1%)	589 (100%)

・ 県人会会員、ふるさと納税者

表 3

~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60~69 歳	70 歳~	無回答	計
3 (1.2%)	13 (5.1%)	30 (11.8%)	34 (13.4%)	44 (17.3%)	126 (49.6%)	4 (1.6%)	254 (100%)

③回答者の出身地域

表 4

	旧日和佐町	旧日和佐町以外 の県内地域	県外	無回答	計
高校生	26 (4.4%)	465 (78.9%)		98 (16.6%) ※ 2	589 (100%)
県人会会員 ふるさと納税者	9 (3.5%)	229 (90.2%)	16 (6.3%) ※ 3	0 (0.0%)	254 (100%)
計	35 (4.2%)	710 (84.2%)		98 (11.6%)	843 (100%)

※ 2 出身地域無回答の 98 名については「秋祭り」を知っている場合には「秋祭り」について回答し、知らない場合には地元のお祭りについて回答する。

(98 名の内、「秋祭り」を知っている… 17 名、知らない… 81 名)

※ 3 県外出身の 16 名については「秋祭り」を知っている場合には「秋祭り」について回答する。(知らない場合でも、地元のお祭りについては回答しない)

(16 名の内、「秋祭り」を知っている… 4 名、知らない… 12 名)

日和佐出身の場合は、「秋祭り」について回答し、日和佐以外の出身の場合は地元のお祭りについて回答すること、また、前述の※ 2、※ 3 を反映すると、「秋祭り」または地元のお祭りについての回答者はそれぞれ表 5 のとおり。なお、県外出身の 16 名のうち、「秋祭り」を知らない 12 名に関しては、地元のお祭りについても回答しないため、回答者の合計は、表 4 より 12 名少なくなっている。

表 5

	「秋祭り」	地元のお祭り	計
高校生	43 (7.3%)	546 (92.7%)	589 (100%)
県人会会員 ふるさと納税者	13 (5.4%)	229 (94.6%)	242 (100%)
計	56 (6.7%)	775 (93.3%)	831 (100%)

旧日和佐町出身者からの回答はあまり得られなかったため、旧日和佐町以外の出身者のアンケート結果について主に検証する。

4-2. 仮説の検証：仮説1

仮説1 子どもの頃（高校生頃まで。以降も同様。）にお祭りに関わったことのある人の方が、現在もお祭りに関わっている、もしくは関わりたいと考えている。

対象1 高校生

①「秋祭り」

表6

		今後「秋祭り」に関わりたいか		計
		・関わりたい ・どちらかといえば 関わりたい	・どちらかといえば 関わりたくない ・関わりたくない	
子どもの頃に 「秋祭り」に 関わったこと があるか	ある	31 (96.9%… A)	1 (3.1%)	32 (100%)
	ない	8 (72.7%… B)	3 (27.3%)	11 (100%)
計		39	4	43

①地元のお祭り

表7

		今後地元のお祭りに関わりたいか			計
		・関わりたい ・どちらかといえば 関わりたい	・どちらかといえば 関わりたくない ・関わりたくない	無回答	
子どもの 頃に地元 のお祭り に関わっ たことが あるか	ある	336 (88.0%… A)	45 (11.8%)	1 (0.3%)	382 (100%)
	ない	82 (51.3%… B)	76 (47.5%)	2 (1.3%)	160 (100%)
	無回答	4			4
計		418	121	3	546

「秋祭り」、地元のお祭りともに、 $A > B$ であり、仮説1が立証された。

対象2 県人会会員、ふるさと納税者

①「秋祭り」

表 8

		最近「秋祭り」に関わったか 最近「秋祭り」に関わっていない場合、機会や関わりやすい状況があれば関わりたいか		計
		・最近関わった ・最近関わっていないが、関わりたい ・最近関わっていないが、どちらかといえば関わりたい	・最近関わっていないし、どちらかといえば関わりたくない ・最近関わっていないし、関わりたくない	
子どもの頃に「秋祭り」に関わったことがあるか	ある	9 (81.8%… A)	2 (18.2%)	11 (100%)
	ない	2 (100%… B)	0 (0.0%)	2 (100%)
計		11	2	13

②地元のお祭り

表 9

		最近地元のお祭りに関わったか 最近地元のお祭りに関わっていない場合、機会や関わりやすい状況があれば関わりたいか			計
		・最近関わった ・最近関わっていないが、関わりたい ・最近関わっていないが、どちらかといえば関わりたい	・最近関わっていないし、どちらかといえば関わりたくない ・最近関わっていないし、関わりたくない	無回答	
子どもの頃に地元のお祭りに関わったことがあるか	ある	144 (81.4%… A)	28 (15.8%)	5 (2.8%)	177 (100%)
	ない	24 (57.1%… B)	13 (31.0%)	5 (11.9%)	42 (100%)
	無回答	10			10
計		168	41	10	229

「秋祭り」については、回答数が少なく信頼できる結果は得られなかった。(A < B)
 地元のお祭りについては、A > B であり、仮説 1 が立証された。

つまり、子どもの頃にお祭りに関わったことのある人の方が、現在もお祭りに関わっている、もしくは関わりたいと考えていると言える。

4-3. 仮説の検証：仮説2

仮説2 子どもの頃にお祭りに深く関わった人ほど、現在もお祭りに関わっている、もしくは関わりたいと考えている。

高校生並びに県人会会員及びふるさと納税者が、子どもの頃に「秋祭り」または地元のお祭りに関わった際の関わり方は表10及び表11のとおり。なお、複数回答可のため、回答数の合計は回答者数と一致しない。

①「秋祭り」

表10

		高校生	県人会会員 ふるさと納税者	計	
子どもの 頃に「秋 祭り」に どのよう に関わっ たか	ア	・子どもみこしを担いだ	17	3	20
		・「ちょうさ」を担いだ	5	1	6
		・太鼓を叩いた	12	2	14
		・「ちょうさ」の組み立てや 飾り付けをした	2	0	2
		・料理や飲み物、衣服の 準備をした	3	0	3
	計	39	6	45	
	イ	・露店で買い物をした	19	8	27
		・観客として関わった	22	8	30
	小計	41	16	57	
	その他	1	0	1	
合計		81	22	103	

その他の内容（高校生）…拍子をした

②地元のお祭り

表 11

		高校生	県人会会員 ふるさと納税者	計	
子どもの頃、 地元の お祭りに どのよ うに関わ ったか	ア	・何らかの役割を担った	177	85	262
	イ	・露店で買い物をした	215	—	215
		・観客として関わった	272	127	399
	イ	小計	487	127	614
	その他	7	12	19	
計		671	224	895	
無回答		1	0	1	
合計		672	224	896	

その他の内容（高校生）

…だんじりに乗った、地車を引っ張った、阿波踊りを踊った、イベントでパフォーマンスをした、舞を踊った、出店した

その他の内容（県人会会員、ふるさと納税者）

…阿波踊りの連に参加、家族が料理を振る舞っていた、小太鼓・笛を任された、子どもみこしを担いだ、役割のあった親について行った、阿波踊り（三味線・踊り）、奴行列の露払いとして天狗の面を着けて大きな御幣を振り回す役、太鼓を叩く、神輿・山車に乗る、すもう大会

対象1 高校生

①「秋祭り」

表 12

		今後「秋祭り」に関わりたいか		計
		・関わりたい ・どちらかといえば 関わりたい	・どちらかといえば 関わりたくない ・関わりたくない	
子どもの頃、 「秋祭り」に どのように関 わったか	ア	38 (97.4%… C)	1 (2.6%)	39 (100%)
	イ	41 (100%… D)	0 (0%)	41 (100%)
	その他	1 (100%)	0 (0%)	1 (100%)
計		80	1	81

②地元のお祭り

表 13

		今後地元のお祭りに関わりたいか		計
		・関わりたい ・どちらかといえば 関わりたい	・どちらかといえば 関わりたくない ・関わりたくない	
子どもの頃、 地元のお祭り にどのように 関わったか	ア	154 (87.0%… C)	23 (13.0%)	177 (100%)
	イ	443 (91.0%… D)	44 (9.0%)	487 (100%)
	その他	7 (100%)	0 (0%)	7 (100%)
計		604	67	671

「秋祭り」、地元のお祭りともに、 $C < D$ であり、仮説 2 とは逆の結果となったが、お祭りへの関与に前向きな人の割合 C 及び D には、どちらも大きな差はない。

対象 2 県人会会員、ふるさと納税者

①「秋祭り」

表 14

		最近「秋祭り」に関わったか 最近「秋祭り」に関わっていない場合、機会 や関わりやすい状況があれば関わりたいか		計
		・最近関わった ・最近関わっていないが、 関わりたい ・最近関わっていないが、 どちらかといえば 関わりたい	・最近関わっていないし、 どちらかといえば 関わりたくない ・最近関わっていないし、 関わりたくない	
子どもの頃、 「秋祭り」に どのように 関わったか	ア	4 (66.7%… C)	2 (33.3%)	6 (100%)
	イ	15 (93.8%… D)	1 (6.3%)	16 (100%)
	その他	0 (—)	0 (—)	0 (—)
計		19	3	22

②地元のお祭り

表 15

		最近地元のお祭りに関わったか 最近地元のお祭りに関わっていない場合、機会や関わりやすい状況があれば関わりたいか			計
		・最近関わった ・最近関わっていないが、関わりたい ・最近関わっていないが、どちらかといえば関わりたい	・最近関わっていないし、どちらかといえば関わりたくない ・最近関わっていないし、関わりたくない	無回答	
子どもの頃、地元のお祭りにどのように関わったか	ア	67 (78.8%… C)	17 (20.0%)	1 (1.2%)	85 (100%)
	イ	106 (83.5%… D)	17 (13.4%)	4 (3.1%)	127 (100%)
	その他	11 (91.7%)	1 (8.3%)	0 (0%)	12 (100%)
計		184	35	5	224

「秋祭り」、地元のお祭りともに、 $C < D$ であり、仮説 2 とは逆の結果となった。

「秋祭り」については、お祭りへの関与に前向きな人の割合 C 及び D に差があるが、全体の回答数自体が 30 未満であるため、有意な差であるかどうかは分からない。

地元のお祭りについては、お祭りへの関与に前向きな人の割合 C 及び D に、大きな差はないことが分かる。

つまり、仮説 2 は立証されず、子どもの頃のお祭りへの関与が深い人ほど、現在も関わっているもしくは関わりたいと考えているとは言えず、また、子どもの頃のお祭りへの関与が深いと考えられる（何らかの役割を担った）人と、観客として参加した人とでは、最近のお祭りへの関与や、今後お祭りに関わりたいと考えている人の割合に大きな差はない。

4-4. 仮説の検証：仮説 3

仮説 3 子どもの頃にお祭りに長く関わった人ほど、現在もお祭りに関わっている、もしくは関わりたいと考えている。

高校生並びに県人会会員及びふるさと納税者が、子どもの頃に「秋祭り」または地元のお祭りに関わった段階及び段階数は表 16 及び表 17 のとおり。なお、複数回答可のため、関わった段階数の合計については、回答者数と一致しない。

①各段階

表 16

		高校生		県人会会員 ふるさと納税者		計	
		「秋祭り」	地元のお祭り	「秋祭り」	地元のお祭り	「秋祭り」	地元のお祭り
子どもの頃、「秋祭り」または地元のお祭りにいつ関わったか	就学前	11	187	6	87	17	274
	小学生	26	331	8	167	34	498
	中学生	21	260	6	84	27	344
	高校生	17	181	5	39	22	220
	無回答	0	1	0	2	0	3
計		75	960	25	379	100	1,339

②関わった段階数（※4）

表 17

		高校生		県人会会員 ふるさと納税者		計	
		「秋祭り」	地元のお祭り	「秋祭り」	地元のお祭り	「秋祭り」	地元のお祭り
子どもの頃、「秋祭り」または地元のお祭りに関わった段階数	4	7	111	2	26	9	137
	3	9	85	3	32	12	117
	2	4	75	2	60	6	135
	1	12	110	4	57	16	167
	無回答	0	1	0	2	0	3
計		32	382	11	177	43	559

※4 お祭りに関わった段階数

小学校入学前、小学生のとき、中学生のとき、高校生のときの4段階のうち、

4…4段階全てで関わった

3…4段階のうちのいずれか3つの段階で関わった

（関わった段階が連続している必要はない）

2…4段階のうちのいずれか2つの段階で関わった

（関わった段階が連続している必要はない）

1…4段階のうちのいずれか1つの段階でのみ関わった

表 16 において、子どもの頃に「秋祭り」または地元のお祭りに関わった段階については、「小学生のとき」が最も多く、中学生、高校生と学年が上がるにつれて減少していくことが分かる。

対象1 高校生

①「秋祭り」

表 18

		今後「秋祭り」に関わりたいか		計
		・関わりたい ・どちらかといえば 関わりたい	・どちらかといえば 関わりたくない ・関わりたくない	
子どもの頃、 「秋祭り」に 関わった段階数	4	7 (100%… E)	0 (0%)	7 (100%)
	3	9 (100%… F)	0 (0%)	9 (100%)
	2	4 (100%… G)	0 (0%)	4 (100%)
	1	11 (91.7%… H)	1 (8.3%)	12 (100%)
計		31	1	32

②地元のお祭り

表 19

		今後地元のお祭りに関わりたいか			計
		・関わりたい ・どちらかといえば 関わりたい	・どちらかといえば 関わりたくない ・関わりたくない	無回答	
子どもの 頃、地元 のお祭り に関わっ た段階数	4	108 (97.3%… E)	3 (2.7%)	0 (0%)	111 (100%)
	3	81 (95.3%… F)	4 (4.7%)	0 (0%)	85 (100%)
	2	58 (77.3%… G)	16 (21.3%)	1 (1.3%)	75 (100%)
	1	88 (80.0%… H)	22 (20.0%)	0 (0%)	110 (100%)
	無回答		1		1
計		335	45	1	382

「秋祭り」については、 $E = F = G > H$ となり、仮説 3 と同じ結果となつてはいるが、今後「秋祭り」に「どちらかといえば関わりたくない」または「関わりたくない」と回答したのは、全体で見ても 1 名であり、回答者のほとんどが今後の「秋祭り」への関与に前向きな気持ちを持っていることが分かる。

地元のお祭りについては、 $E > F > H > G$ となり、地元のお祭りに関わった段階数が 2 の場合を除くと、仮説 3 が立証された。段階数 4 及び 3 については、どちらも 95% を超えており、完全な比例関係ではないものの、地元のお祭りに関わった段階数が多い生徒は、今後の地元のお祭りへの関与に前向きな気持ちを持っていると考えられる。

対象2 県人会会員、ふるさと納税者

①「秋祭り」

表 20

		最近「秋祭り」に関わったか 最近「秋祭り」に関わっていない場合、機会や 関わりやすい状況があれば関わりたいか		計
		・最近関わった ・最近関わっていないが、関わりたい ・最近関わっていないが、どちらかといえ ば関わりたい	・最近関わっていないし、どちらかといえ ば関わりたくない ・最近関わっていないし、関わりたく ない	
子どもの頃、 「秋祭り」に 関わった段階数	4	2 (100%… E)	0 (0%)	2 (100%)
	3	2 (66.7%… F)	1 (33.3%)	3 (100%)
	2	1 (50.0%… G)	1 (50.0%)	2 (100%)
	1	4 (100%… H)	0 (0%)	4 (100%)
計		9	2	11

②地元のお祭り

表 21

		最近地元のお祭りに関わったか 最近地元のお祭りに関わっていない場合、機会や関 わりやすい状況があれば関わりたいか			計
		・最近関わった ・最近関わっていないが、関わりたい ・最近関わっていないが、どちらかといえ ば関わりたい	・最近関わっていないし、どちらかといえ ば関わりたくない ・最近関わっていないし、関わりたく ない	無回答	
子どもの 頃、地元 のお祭り に関わっ た段階数	4	24 (92.3%… E)	2 (7.7%)	0 (0%)	26 (100%)
	3	26 (81.3%… F)	5 (15.6%)	1 (3.1%)	32 (100%)
	2	45 (75.0%… G)	13 (21.7%)	2 (3.3%)	60 (100%)
	1	47 (82.5%… H)	8 (14.0%)	2 (3.5%)	57 (100%)
	無回答		2		2
計		142	28	5	177

「秋祭り」については、 $E = H > F > G$ となり、「秋祭り」に関わった段階数が 1 の場合を除くと、仮説 3 と同じ結果になっているが、全体の回答数が 11 と少なく、信頼できる結果とは考えられない。

地元のお祭りについては、 $E > H > F > G$ となり、地元のお祭りに関わった段階数が 1 の場合を除くと、仮説 3 と同じ結果となっている。

つまり、子どもの頃にお祭りに長く関わった人の方が、現在もお祭りに関わっている、もしくは関わりたいと考えていると言える。

4-5. 今後、どのように「秋祭り」または地元のお祭りに関わりたいか

ここまでの 3 つの仮説の検証においては、お祭りの関係人口を増やすために、子どもの頃のお祭りへの関わりのうちどの要素が重要であるのかを分析した。ここからは、分析した重要な要素を意識した子どもの頃のアプローチによって、増加した関係人口に、実際にお祭りに関わってもらうための分析を行う。

まず、対象 1 及び対象 2 のうちで、今後、機会や関わりやすい状況があれば「秋祭り」または地元のお祭りに、「関わりたい」「どちらかといえば関わりたい」と考えている人に対して、今後、どのようにお祭りに関わりたいかを調査した。なお、複数回答可のため、回答数の合計は回答者数と一致しない。

①秋祭り

表 22

	高校生	県人会会員 ふるさと納税者	計
「金みこし」を担ぐ	6 (8.7%)	0 (0%)	6 (7.3%)
「ちょうさ」を担ぐ	9 (13.0%)	1 (7.7%)	10 (12.2%)
太鼓を教える	5 (7.2%)	0 (0%)	5 (6.1%)
「ちょうさ」の組み立てや 飾り付けをする	2 (2.9%)	1 (7.7%)	3 (3.7%)
料理や飲み物、衣服の 準備をする	6 (8.7%)	3 (23.1%)	9 (11.0%)
「秋祭り」を写真や動画で 撮影・発信する	10 (14.5%)	1 (7.7%)	11 (13.4%)
観客として関わる	26 (37.7%)	6 (46.2%)	32 (39.0%)
グッズを買う	5 (7.2%)	1 (7.7%)	6 (7.3%)
その他	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
計	69 (100%)	13 (100%)	82 (100%)

グッズ…お守り・絵馬等の授与品や、カレンダー・キーホルダー等

②地元のお祭り

表 23

	高校生	県人会会員 ふるさと納税者	計
何らかの役割を担う	126 (19.6%)	35 (17.8%)	161 (19.1%)
地元のお祭りを写真や動画で 撮影・発信する	77 (12.0%)	32 (16.2%)	109 (12.9%)
グッズを買う	128 (19.9%)	39 (19.8%)	167 (20.0%)
観客として関わる	309 (48.1%)	89 (45.2%)	398 (47.6%)
その他	2 (0.3%)	2 (1.0%)	4 (0.5%)
計	642 (100%)	197 (100%)	839 (100%)
無回答	0	3	3

グッズ…お守り・絵馬等の授与品や、カレンダー・キーホルダー等
その他の回答…阿波踊りをする、出店の中を見て通る事も面白い

「秋祭り」及び地元のお祭り、高校生並びに県人会会員及びふるさと納税者のいずれにおいても「観客として関わる」が最も多かった。

「秋祭り」について 2 番目に多い回答としては、高校生では『秋祭り』を写真や動画で撮影・発信する」、県人会会員及びふるさと納税者では「料理や飲み物、衣服の準備をする」となり、スマートフォン等の情報機器や SNS に幼い頃から慣れ親しんだ高校生ならではの特徴が現れている。

地元のお祭りについては、高校生、県人会会員及びふるさと納税者とも「グッズを買う」が 2 番目に多かった。

また、担い手確保の面から見ると、「秋祭り」における『金みこし』を担ぐ』『ちょうさ』を担ぐ」「太鼓を教える」といった項目や、地元のお祭りにおける「何らかの役割を担う」といった項目については、県人会会員やふるさと納税者よりも、高校生の方が回答割合が高い傾向にある。逆に「秋祭り」における『ちょうさ』の組み立てや飾り付けをする」「料理や飲み物、衣服の準備をする」といった項目については、高校生よりも県人会会員やふるさと納税者の方が回答割合が高い傾向にあった。

この要因としては、2 つの対象では年齢構成が全く異なることが考えられるが、担い手を募集する際のアプローチ先として考慮しても良いかもしれない。

4-6. どんな取り組みや支援があれば「秋祭り」や地元のお祭りに参加しやすくなるか

4-5での調査に加えて、対象2の県人会会員及びふるさと納税者、すなわち地域外に転出している人で、今後、機会や関わりやすい状況があれば「関わりたい」「どちらかと

いえば関わりたい」と考えている人に対しては、どのような取り組みや支援があれば、お祭りに参加しやすくなるかという点についても調査を行った。

表 24

	県人会会員 ふるさと納税者	
	「秋祭り」	地元のお祭り
お祭りの前に、地元のお祭り関係者と 顔合わせできる場がある	1 (10.0%)	30 (17.1%)
お祭り参加ツアーのような形で、 他の参加者と一緒に参加できる	4 (40.0%)	38 (21.7%)
最近のお祭りの開催状況や雰囲気 事前に知ることができる	3 (30.0%)	70 (40.0%)
参加者と地元との間に入って橋渡しをしてくれる コーディネーターがいる	2 (20.0%)	32 (18.3%)
その他	0 (0%)	5 (2.9%)
計	10 (100%)	175 (100%)
無回答	0	9

その他の内容

- … ・時期的に遠方から帰省することが難しいため、何らか帰省する動機づけとなる行事や集まりとうまく一緒にできると良い
- ・そもそもいつどこで開催されるのかという情報がほしい
- ・70 才以上でも祭りは楽しいので、出来る事で参加をしたい。神輿等が無いので、パレードへの参加をできないか
- ・関わりたい地元の祭りのみ参加
- ・現在お祭りがあるのかどうか承知していない。

「秋祭り」と地元のお祭りの両方について、「お祭り参加ツアーのような形で、他の参加者と一緒に参加できる」と「最近のお祭りの開催状況や雰囲気を事前に知ることができる」が回答数の多い上位2つであった。その他の内容では、お祭りが開催されているかどうかの情報すら、地域外にいと分からないという声もあった。

5. 考察

4での仮説の検証結果及びその他の分析結果についてまとめると表 25 のようになる。
(◎…仮説どおり、○…概ね仮説どおり、×…仮説とは違う結果が得られた)

表 25

	対象 1 高校生		対象 2 県人会会員 ふるさと納税者	
	「秋祭り」	地元のお祭り	「秋祭り」	地元のお祭り
仮説 1 子どもの頃にお祭りに関わったことのある人の方が、現在もお祭りに関わっている、もしくは関わりたいと考えている	◎ (A>B)	◎ (A>B)	× (A<B) ※回答数 30 未満	◎ (A>B)
仮説 2 子どもの頃にお祭りに深く関わった人ほど、現在もお祭りに関わっている、もしくは関わりたいと考えている	× (C<D) 大きな差はない	× (C<D) 大きな差はない	× (C<D) ※回答数 30 未満	× (C<D) 大きな差はない
仮説 3 子どもの頃にお祭りに長く関わった人ほど、現在もお祭りに関わっている、もしくは関わりたいと考えている	○ (E=F=G>H)	○ (E>F>H>G)	○ (E=H>F>G) ※回答数 30 未満	○ (E>H>F>G)
今後、どのように「秋祭り」または地元のお祭りに関わりたいか	①観客として関わる ②写真や動画で撮影・発信する	①観客として関わる ②グッズを買う	①観客として関わる ②料理や飲み物、衣服の準備をする	①観客として関わる ②グッズを買う
どんな取り組みや支援があれば、「秋祭り」や地元のお祭りに参加しやすくなるか			①お祭り参加ツアーのような形で、他の参加者と一緒に参加できる ②最近のお祭りの開催状況や雰囲気を知ることができる	①最近のお祭りの開催状況や雰囲気を事前に知ることができる ②お祭り参加ツアーのような形で、他の参加者と一緒に参加できる

5-1. 祭り文化の関係人口創出について

仮説1及び仮説3が立証されたことから、地域を離れてからもお祭りに関わる関係人口を増やすためには、子どもの頃にお祭りに関わってもらうこと、さらに、できる限り長い期間関わってもらうことが有効であると考えられる。

また、仮説2については、「秋祭り」及び地元のお祭りの両方で仮説とは逆の結果が得られたが、回答数が30以上のものについては、お祭りへの関与に前向きな人の割合に大きな差は見られなかったため、子どもの頃にお祭りにどのように関わったかは、その後地域を離れてからのお祭りへの関与には大きく影響しないと考えられる。

つまり、地域を離れてからもお祭りに関わる関係人口を増やすためには、

- ・関与の仕方（役割を担うかどうか、どんな役割を担うか 等）に関わらず、
- ・できるだけ多くの子どもに、
- ・できるだけ長くお祭りに関わってもらう

ことが有効であり、そのためのアプローチ方法を検討する必要がある。

表16を見ると、「秋祭り」及び地元のお祭りともに、小学生のときに関わったという回答が最も多く、中学、高校と段階が進むにつれて、関わったという回答が少なくなっている。本調査内容においては、中学生及び高校生の段階で「秋祭り」や地元のお祭りへの関与が少なくなる理由は明確には分からないが、中学生になる段階では、地区外出身の子どもも含めて友達同士で一緒にお祭りに参加しようという流れにはなっていないことや、親に連れられて祭りに参加することが少なくなること、また、子どもみこし等を担ぐことがなくなり、お祭りにおける役割が少なくなることが考えられる。また、美波町内には高校がなく、旧日和佐町出身の子どもが進学する場合、地区外の高校に通うことになることから、高校進学タイミングで地元以外の地域と関わる機会が増え、相対的に出身地域との距離がさらに遠くなる可能性が考えられる。さらに、中学校や高校に入学すると、部活動に加入したり学習塾に通い始めたりすることで、お祭り等に関わるための時間が少なくなることとも要因として考えられる。

本調査において、高校生に今後のお祭りとの関わり方について調査したところ、「秋祭り」に関しては、「写真や動画で撮影・発信する」が「観客として関わる」の次に多い回答となった。これは、県人会及びふるさと納税者や、地元のお祭りとは違った結果である。

これらの結果から、できるだけ多くの子どもに、できるだけ長く「秋祭り」に関わってもらうためには、特に中学生や高校生の子どものたちが継続して関わるのが重要である。前述したように、中学生、高校生になると「秋祭り」での役割が少なくなるのであれば、新たな役割を創出することはできないか。新たな役割の例として、「秋祭り」の様子を写真や動画で撮影して、各自のSNSで発信するといった同世代の子ども向けの広報の役割を果たしてもらうことで、他の中学生や高校生に効果的に「秋祭り」の様子を発信でき、友達同士で誘い合って「秋祭り」に参加することにもつながるのではないかと考える。

さらに、仮説1が立証されたことから、旧日和佐町出身者の発信を見て「秋祭り」に関わったことが「ある」子どもが増えれば、将来「秋祭り」への関与に前向きな関係人口を増加させることにつながることが期待できる。

5-2. 関係人口が実際にお祭りに参加しやすい状況にするには

「今後、どのように『秋祭り』または地元のお祭りに関わりたいか」の調査結果で最も多かった「観客として関わる」ことを望む人に、まずは実際にお祭りに参加してもらうためのアプローチ方法を検討する。そのために、「どのような取組や支援があれば、お祭りに関わりやすくなるか」に関する調査で、回答の多かった「お祭り参加ツアーのような形で、他の参加者と一緒に参加できる」「最近のお祭りの開催状況や雰囲気事前に知ることができる」から、お祭りを見に行きたいと考える人の課題や障壁となっているものを考える。

「お祭り参加ツアーのような形で、他の参加者と一緒に参加できる」

考えられる課題・障壁

- ① 1人では参加しにくい
- ② 現地までの移動手段や宿泊先の確保

「最近のお祭りの開催状況や雰囲気を事前に知ることができる」

考えられる課題・障壁

- ③ お祭りが、いつ、どこで、どのように開催されているのか分からない
- ④ 雰囲気が分からないため、しばらく関わっていないと関わりづらい

これらの課題及び障壁のうち、②現地までの移動手段や宿泊先の確保については、ハード面の整備が必要になることもあり、行政や企業の果たす役割が特に大きいものと考えられるが、本調査にあたっては、まずは地元の「秋祭り」関係者において何ができるかを考えることとする。

① 1人では参加しにくい及び②現地までの移動手段や宿泊先の確保という課題の解消に向けては、知り合いで「秋祭り」に一緒に参加する人がいなくても、誰かと一緒に参加できるような仕組みづくりが考えられる。具体的には、選択肢の1つでもあった、一般の方を対象とした「秋祭り」参加ツアーや、企業、教育機関や県出身者団体を対象とした団体ツアーを、移動手段や宿泊先をセットにした内容で開催することが考えられる。後者については、令和元年に奈良県人会の会員が「秋祭り」に団体で参加しているが、県人会以外にも、ふるさと会等の市町村単位での出身者団体等での参加も考えられる。

③お祭りが、いつ、どこで、どのように開催されているか分からないという課題については、出身者にきちんと情報が届くような、ターゲットを絞った情報発信が重要である。発信先としては、今回のアンケート対象である県人会会員やふるさと納税者に加えて、ふるさと会会員や、各学校の同窓会会員等も考えられる。また、地域に住んでいる方から、地域外の知り合いにアプローチするという方法も考えられる。こちらについては、地域に知り合いがいるため、地域外に出ている人でも参加しやすいかもしれない。現在、ちょうさを運行している8町の中村町では、「秋祭り」の前に、地区出身の県外居住者向けに「秋祭り」の案内を発送しており、本祭り際には、県外在住者も帰省し、「秋祭り」に参加している。

④雰囲気が分からないため、しばらく関わっていないと関わりづらいという課題について

ては、前述の情報発信の際に、単なる「秋祭り」の案内だけでなく、最近の雰囲気写真を写真や動画で見られるようにすることでイメージが湧きやすくなると考えられる。

6. まとめと今後

5-1より、地域を離れてからも「秋祭り」や地元のお祭りに関わる関係人口を増やすためには、「関与の仕方（役割を担うかどうか、どんな役割を担うか 等）に関わらず、できるだけ多くの子どものみ、できるだけ長くお祭りに関わってもらおう」ことが有効であり、そのために、中学生、高校生への新たなお祭りとの関わりとして、「秋祭り」の様子を写真や動画で撮影し、各自の SNS で発信するといった同世代の子ども向けの広報の役割を果たしてもらおうことが考えられる。

また、5-2より、関係人口が実際にお祭りに参加しやすい状況にするには、

- ・知り合いで「秋祭り」と一緒に参加する人がいなくても、誰かと一緒に参加できるような仕組みづくりとして、一般の方を対象とした「秋祭り」参加ツアーや、企業、教育機関や県出身者団体を対象とした団体ツアーの開催
- ・県人会会員、ふるさと会会員、ふるさと納税者、各学校の同窓会会員等の地域出身者への効果的な情報発信及び地域居住者から知り合いの地域外居住者へのアプローチ
- ・「秋祭り」の案内だけでなく、最近の雰囲気が分かるような写真や動画も発信

等のアプローチが考えられる。

これらの分析結果について、「秋祭り」の関係者に共有し、既に実施している取組等について意見を伺った。以前は、ちょうさを運行する8町の子どものみしか太鼓を叩けなかったところ、8町以外の子どものみでも叩けるように太鼓を教える教室を10年ほど前から開催している。最近になって、人手が不足している町から声がかかるようになったという。また、日和佐八幡神社で開催される「宮の市」において、ちょうさを担ぐ体験や太鼓を叩く体験ができるようになっている。

これらは、「秋祭り」に関わるための間口を広げる取組と言える。これらの取組によって、小さい頃に「秋祭り」に関わった子どもに、中高生になった際の広報という役割を与えることで、より多くの子どもにより長くお祭りに関わってもらえるようになるのではないか。

また、関係者の間で聞かれた課題として、そもそも子どもの数が減っているため、より多くの子どもにより長く関わってもらおうような取組をしたとしても減っていくのではないかというものがあつた。この点については、南部総合県民局において取り組む移住・定住や防災の取組により地道に人口減少をくい止めることや、地域外に転出しても関係人口として関わり続けられるような情報発信により改善を図ることができると考えられる。

最後に、本調査では「秋祭り」と地元のお祭りについて、ほとんどの項目で同様の結果が得られた。このことから、「秋祭り」について検討したアプローチ方法については、各地の地元のお祭りに関しても、一定の汎用性があることが期待できる。

7. 終わりに

本調査にあたり、アンケートやヒアリング等にご協力いただいた全ての皆さまに心から感謝申し上げます。アンケートの実施に当たって「秋祭り」関係者の方々からご意見をいただいた際には、それぞれのお立場で、「秋祭り」を次世代へ継承したいという熱意を感じ、また、アンケートでは、欄外にもたくさんのあたたかいお言葉をいただきました。

今後も人口減少及び過疎高齢化が進行することが予想されているが、お祭りをはじめ県内の様々な文化が、地域住民と地域外の関係人口双方の協力によって次世代へ継承されていくことを切に願うとともに、徳島県南部総合県民局としても精一杯取り組んで参る。

8. 参考文献

- ・日和佐ちょうさ保存会（平成 29 年）「日和佐八幡神社秋季例大祭」
https://hiwasahachiman.com/hiwasahachiman/wp-content/themes/hiwasahachiman1.0.0/images/pdf/catalog_2017.pdf
（最終閲覧日：令和 6 年 2 月 26 日）
- ・政府統計の総合窓口 e-Stat「昭和 45 年国勢調査 市区町村，人口集中地区別人口，人口増加数（昭和 40 年～ 45 年），面積及び人口密度 30 和歌山県～ 47 沖縄県」
https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200521&tstat=000001037125&cycle=0&tclass1=000001037126&toukei_kind=6&tclass2val=0
（最終閲覧日：令和 6 年 2 月 26 日）
- ・政府統計の総合窓口 e-Stat「昭和 60 年国勢調査 第 1 次基本集計 都道府県編 男女の別（性別）（3），年齢 5 歳階級（23）人口及び平均年齢・年齢中位数」
<https://www.e-stat.go.jp/dbview?sid=0000030449>
（最終閲覧日：令和 6 年 2 月 27 日）
- ・政府統計の総合窓口 e-Stat「令和 2 年国勢調査 徳島県 男女，年齢（5 歳階級）別人口，平均年齢及び総年齢一町丁・字等」
https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200521&tstat=000001136464&cycle=0&tclass1=000001136472&tclass2=000001159909&toukei_kind=6&tclass3val=0
（最終閲覧日：令和 6 年 2 月 26 日）
- ・国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和 5（2023）年推計）結果表 1 総人口及び指数（令和 2（2020）年＝100 とした場合）」
<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson23/t-page.asp>
（最終閲覧日：令和 6 年 2 月 26 日）